

モデルプログラム検証カリキュラム（実施計画）

養成・○研修 / 基礎・○専門・支援員（該当するものに○）

★ 参照したモデルプログラム No.（報告書 pp.207-244） 下線：内容・項目（pp.72-76）

日時	2018年7月23日(水)14:00～17:00 時間:180分			
研修・授業名	豊橋市外国人児童生徒教育研究部夏季研修会			
受講者	<ul style="list-style-type: none"> ・人数：60名(予定) 日本語指導担当教員、外国人児童生徒教育相談員 ・年齢層：20代6名、30代14名、40代17名、50代24名、60代以上2人 			
演題・テーマ☆	日本語能力の把握と日本語指導の理論と方法 ☆研修内容（報告書 pp.241）を反映			
到達目標	日本語能力を把握する方法としてDLA<話す>を理解し、会話能力を高めるための具体的な指導法を考えられるようになる。			
活動展開（180分）	★	形態	留意点	参考資料
講義1 日本語能力の把握の方法(30分)				
1. DLAで示されている言語能力観 <ul style="list-style-type: none"> ・参加者の言語観を意識させる導入の質問 ・ヴィゴツキーの「発達の最近接領域」とスキャフォールディング ・生活言語能力/学習言語能力 ・日本語運用能力の難易度 2. DLAの構造 <ul style="list-style-type: none"> ・はじめの一步から「JSL評価参照枠」まで 3. DLA<話す>の構造と評価について <ul style="list-style-type: none"> ・基礎タスク/対話タスク/認知タスク ・診断シート ・質的評価シート ・JSL評価参照枠 ・アセスメントの方法 	⑰ ⑱	講義	(DLA 冊子 pp.3-5) (DLA 冊子 pp.6-12)	<ul style="list-style-type: none"> ・『外国人児童生徒のためのJSL対話型アセスメントDLA』（文部科学省） ・『外国人児童生徒支援ガイドブック』（齋藤ひろみ編著、凡人社）
活動1 DLA<話す>の演習(70分)				
(40分) 4. DLA<話す>の評価と結果のまとめ 【個人】 ①実際にDLA<話す>を中学生に実施。ビデオを視聴し、各自評価を行う。 【グループ：8～10人】 ②各自の評価について発表し合い、疑問点をグループで話し合う。	⑰	活動	<ul style="list-style-type: none"> ・DLA<話す>の実施者が、生徒の基本情報（滞日歴、日頃の様子など）を報告。 ・全体を7グループに分ける。各グループにファシリテーターとして、「DLA指導者養成講座」（東京外国語 	<ul style="list-style-type: none"> ・DLA<話す>の方法 YouTube (東京外国語大学) ・中学生にDLA<話す>

<p>(20分) 5. 評価のまとめ</p> <p>【全員】</p> <p>③ファシリテーターがグループでの疑問や意見を報告する。</p> <p>④講師が評価の視点を解説する。</p> <p>⑤子どもの対話テストの限界と多様な評価方法について</p> <p>(10分) 休憩</p>		<p>講義</p>	<p>大学)を修了した教員や相談員(7名)を配置し、グループでの質問に対処する。</p> <p>⑤ (DLA 冊子 pp.5,12)</p>	<p>>実施の様子を撮影したビデオ</p> <p>・『ACTFL OPI 入門』第4節「子どもを対象とした活用法」(中島和子、アルク)</p>
<p>講義2 <話す>能力を高める指導とは(80分)</p>				
<p>(30分)</p> <p>6. 日本語初期段階の子どもの言語習得</p> <ul style="list-style-type: none"> ・沈黙期 <p>7. DLA<話す>「基礎タスク」「対話タスク」に対応して、「文型」を中心に学ぶ場合の学習活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文型練習 ・タスク活動 ・ロールプレイ <p>(30分)</p> <p>7. 場面と日本語のステージを設定した対話練習用のモデル文を作成 (JSL 評価参照枠<話す>に示された項目を参考にする)</p> <p>【小グループ：2～3人】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ステージ1からステージ2へ ・ステージ2からステージ3へ ・ステージ3からステージ4へ ・ステージ4からステージ5へ <p>(20分)</p> <p>8. まとめ</p>	<p>⑩ 講義</p> <p>⑰ 講義</p> <p>⑳ 演習</p>	<p>講義</p> <p>講義</p> <p>演習</p>	<p>・過去に「日本語基礎」の具体的な指導方法を研修会で実施していないため、「日本語基礎＝文字指導」と捉えている指導者がいる。</p> <p>・JSL 評価参照枠の記載から、「基礎語彙、日常語彙、教科学習語彙」「一語文、二語文、単文、連文」「助詞や活用」等、指導につながる視点について解説する。</p> <p>・DLA<話す>には、経験の浅い指導者の拠り所になる「評価事例、判断のポイント、支援の手立て」等が記載されていない。</p> <p>・JSL 評価参照枠<話す>を参考に、次ステージに上げるための会話練習用モデル文を作成する。</p> <p>・講師が随時質問に答える。</p> <p>【演習のフィードバック】</p>	<p>・モデル文作成用フォーム (講師作成)</p> <p>『外国人児童</p>

公益社団法人日本語教育学会・文部科学省委託「モデルプログラム事業」2018

<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの成長を支える日本語指導 ・アンケート実施 		<p>講義</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・当日作成したモデル文を講師が確認し、後日「対話力を高める日本語ロールプレイ集」としてまとめて、参加者に配付する。 	<p>生徒支援ガイドブック』 (齋藤ひろみ編著、凡人社)</p>
--	--	-----------	---	--------------------------------------